

に、應永廿三年律師日海の創立とする。本寺に安置する麻耶夫人は靈驗あるを以て稱せられる。成村に近いから、世人は成の行善寺ともいふ。→マヤブニン 麻耶夫人。

キヨウダイイン 敬大院 大聖寺瀧主第六代前出利精の側室西路氏の法號。詳しくは敬大院遊友妙意信女。

キヨウチユウシユウ 箇中集 一冊。林孫坡著。温泉詩集及び東役詩集合はせて百十餘首を収めたものである。温泉詩集は、文化十一年晚秋江沼郡山中温泉に浴した時と、天保六年初秋越中多岐原温泉に浴した時に成り、東役詩集は文政八年・同十六年・天保四年の三次に、江戸に祓役した時に成つたものである。本書は著者歿後嘉永六年に、門人高澤菊圃が校訂して世に行うた。

キヨウチヨウ 露澄 白山本宮の長吏。三宮古記に、權律師露澄、應安三年五月長吏職に補任せられたと見える。

キヨウチヨウ 行澄 白山本宮の長吏。白山宮莊嚴講中記録文保二年十月十五日に行澄惣長吏、正中三年に行澄律師時長吏、同嘉曆二年に長吏圓乘坊律師行澄と見え、又延文四年十月十一日未刻惣長吏圓乘坊法印行澄他界ともある。

キヨウツ 興津 河北郡英田郷に屬する部落。

キヨウツツ 經筒 明治三十八年八月廿六日陸軍省陸地測量部員は石川郡笈岳頂上尾谷に於いて、銅板を曲げて作つた二個の經筒を發見した。今東京帝室博物館に藏せられる。その一は高一三厘五徑七厘五で、左の銘があつた。

大聖寺住僧齋登坊同行十二人

奉納六十六部如法經 本願 禪守 道順 空範 且那

奉納説主照善坊十三度之時

他の一は高一〇厘八徑四厘八で、次の銘文があつた。

十羅刹女 武州太田庄光福寺住僧本願實榮敬白 奉納大乗妙典六十六部内一部所

キヨウテイ 京邸 天正十五年豊臣秀吉の聚樂邸を京邸に替むや、諸侯各附近に館を構へたが、その中前出利家の邸は泚生氏郷と細川忠興との間に在つたと傳へ、文祿三年四月八日秀吉の臨んだのも亦この邸であるが、舊址の何れの地に當るかは、今之を考へ得ぬ。

次いで同年十月秀吉聚樂第を秀次に譲り、躬ら伏見に住むに及び、利家も之に隨うてその地に移つた。徳川氏の世に至つては、京伏見共に加賀藩の邸第がない。是を以て大坂冬陣の往路には、前出利常陸殿に宿陣し、歸路には本能寺に入り、夏陣には往復共に北野に居り、元和九年七月徳川家光の入洛、寛永三年秀忠・家光父子の上京した時には、利常供奉して本國寺に館し、更に十一年閏七月家光西上の際には、利常近江の大津に在つた。その後藩吏の京に留るもの、利便を計る爲、一たび二條油小路に邸を置いたこともあるが、寛文元年之を廢し、更に三條河原町に、吳服所三宅庄兵衛を地主名義として宅地を購ひ、ここに藩の旅館を興し、士を派遣して奉行せしめることとした。邸の廣さ千四百八十四歩で、東西五十七間、南北三十六間。東は高瀬川に接して橋及び門あり、南は藥師町の方に

水門があつて舟を入れ得られ、西門は河原町通、北門は塗師屋町通に在つたといふ。元治元年三月十九日長藩の兵京邸に侵入して、火をその河原町の邸に放ち、加賀藩の邸は之に隣つて居たが、防火して僅かに難を免れた。藩末に至つては別に崎崎邸があつた。

キヨウトオウライ 京都往來 ↓ジヨウウラク 上洛。

キヨウトオヤシキツメニン 京都御屋敷詰人 慶長末年か元和の初頃黒坂吉左衛門此の職を勤め、元和六年七月九日には九里覺右衛門が命ぜられた。寛文元年三條河原町に藩邸を設けるに及び、御小將・御馬廻の内より一年兩人宛を派し、一人は六月、一人は十月の交替に定められた。其の後は兩人共御馬廻より勤めたが、寛政六年四月以後會所奉行の中より一人宛詰めることになつた。

キヨウトクイン 恭徳院 富山藩主第七代前出利久の法號。詳しくは恭徳院寛桑日善大居士。

キヨウトクジ 慶徳寺 鳳至郡下唐川に在つて、眞宗東派に屬する。

キヨウトクジ 慶徳寺 江沼郡大聖寺に在つて、眞宗東派に屬する。

キヨウトクジ 慶徳寺 鳳至郡門前の曹洞宗總持寺山内に在つて、明應六年僧雲澤の建立に係り、同塔頭洞川庵に屬してゐたが、今は無い。

キヨウトクジ 敬徳寺 羽咋郡徳田に在つて、眞宗東派に屬する。明治十二年九月寺號の公稱を許可せられた。

キヨウトチユウツカヒ 京都中使 俗に京三度とも呼ぶ。金澤京都間の荷物を運搬するものは、前田綱紀の初世から大使があつたが、後にそれより少量の荷物を運搬する中使を生じた。然るに元祿四年彼等は合同して、五日・十日・十五日・二十日・廿五日・晦日を差立日と定めるに及び、大使の名を廢し、専ら京都中使と稱するに至つた。中使には濔用の荷物三貫目を無賃輸送する義務があつたが、後に一貫目に減せられた。中使所は下堤所西側にあつた。今も金澤を中心にして郡部に荷物を運搬する者をナカツカヒといふのは、チユウツカヒの變じたものと思はれる。

キヨウニンジ 教忍寺 珠洲郡本に在つて、眞宗東派に屬する。

キヨウニンツカ 行人塚 能美郡江村御幸塚の南に、行人塚・首塚・胴塚があつた。文政五年行人塚の松が枯れて、その根を堀つた時、地下から素焼の陶器を多く出したといふ。

キヨウネン 經念 珠洲郡若山庄に屬する部落。元祿十四年の郷村名義抄に『此處に往古經念寺と申寺有之由。何比返轉仕候哉、其寺跡に村立出來に付、經念村と申申傳候。』とある。

キヨウネン 行然 ↓オウジユンギヨウネン 應準行然。

キヨウネン 教念寺 江沼郡上福田に在つて、眞宗東派に屬する。明治十二年寺號公稱の許可を得た。

キヨウネン 慶念寺 羽咋郡東間に在つて、眞宗東派に屬する。

キヨウネン 行念寺 鳳至郡常目に在つて、眞宗東派に屬する。